

戦後 1945-1965 年頃の特許・実用新案の申請からみた台所流し台の動向について

A trend of kitchen sink of postwar Japan around 1945-1965

—looking into the applied papers for patents and utility models as source materials—

内田 青蔵*・須崎 文代**・藤谷 陽悦***・安野 彰****
UCHIDA Seizo・SUZAKI Fumiyo・FUJIYA Youetsu・YASUNO Akira

台所流し、特許、実用新案、戦後日本
Kitchen sink, patent, utility model, postwar Japan

要旨

本稿は、家庭用台所設備について、特に戦後日本における台所流しの材料・構造・システム等の技術に関する動向を捉えるため、特許・実用新案の申請内容を整理し、その傾向を考察するものである。とりわけ、ステンレス流しの普及に至るまでの過程について知見を得るため、1945-1965年のデータを取り纏めた。その結果、軽合金、ステンレス、陶器、コンクリート、合成樹脂板等、多様な材料の使用や構造に関する提案が見られ、流し（シンク）の成型に関する模索の様子が確認された。

〇はじめに：戦後のわが国の台所は、DK（ダイニングキッチン）が普及する。この普及には、公的住宅の供給を担った住宅公団（現UR都市機構）のステンレス製流しの採用が大きな影響を与えたといわれている¹⁾。このステンレスの流しの開発はサンウエーブ社によるものであるが²⁾、当時、理想的な流しとしてどのようなものが模索されていたのかは明らかではない。そこで、本稿では、サンウエーブ社がステンレスの流しを開発した昭和30年を中心に昭和20（1945）年から昭和40（1965）年までに申請された実用新案と特許の中から流しに関するものを抽出し、どのような流しが当時提案されていたのかを概観した。

〇昭和20（1945）年から昭和40（1965）年までの実用新案・特許案に見る流しの傾向

特許庁の電子図書館のデータベースから、分類指定方法としてFIを用い、住宅用の流しに関する実用新案及び特許をまとめたものである³⁾。その結果、流しに関して78件の提案が収集できた。この78件について、その新案（特許）の内容を、流し（シンク）に関するもの<A>、流しを支える柱脚部など周辺部に関するものに大別すると、Aが37件、Bが41件となる。この流し（シンク）に関する37件の中で、流しそのものの成型を前提としたもの、あるいは、成型に関する提案は7件見られる。すなわち、昭和23年6月の「組立流し」が最初の提案で、軽金属による鋳造の流しを前提としたものである。

昭和24年11月の「株式会社大坂アルミニウム製作所」の出願した「軽合金板製流し台」は、軽合金板での形成を特徴とした提案であった。昭和30年7月出願の「台所用流し」は18クローム製のプレス加工による流しで、出願者は昭和鋼機株式会社である。また、昭和30年9月には2件の出願がある。「陶製台所流し」は、東洋陶器株式会社の申請によるもので、陶器製の流しの提案である。「洗槽」はコンクリート製の流しの提案である。昭和32年9月出願の「流し」は、板金で形成し、その上面に合成樹脂板またはゴム板を貼り付ける提案である。一方、昭和33年9月に東亜合成化学工業株式会社が出願した「流し」は硬質塩化ビニール板やポリエチレン板の真空成型・押し込み成型などによる流しの提案である。この提案を最後に、この調査時期には、成型に関する提案は見られない。

〇結びにかえて：成型に関する提案の件数は少ないものの、その使われている素材は軽合金、18クロームによるステンレス、陶器、コンクリート、合成樹脂板、硬質塩化ビニール、と多様であることが分かる。そこには、新素材を積極的に活用しようとする姿勢が見て取れる。こうした新素材を活用する動きは、の流しを支える脚台部分にも見ることができるのである。また、新しい素材による試みは、東洋陶器株式会社・東亜合成科学工業株式会社といった企業の新事業への参入をも意味していたことが窺える。一方、昭和33年以降、新素材による流し

* 埼玉大学教育学部 教授（工学博士）

** フリー（修士（工学））

*** 日本大学 教授（工学博士）

**** 文化女子大学 講師（博士（工学））

* Faculty of Education, Saitama University D. Eng.

** Free-lance Researcher M. Eng.

*** Nihon University Prof. D. Eng.

**** Bunka Women's University D. Eng.

